

ピロリ菌について

ピロリ菌って何ですか？

○ピロリ菌は、正式には
ヘリコバクター・ピロリと
いう細菌で、人の胃粘膜の
中に生息しています。

○日本でピロリ菌に感染して
いる人はおよそ6000万人
といわれています。



ヘリコバクター・ピロリ

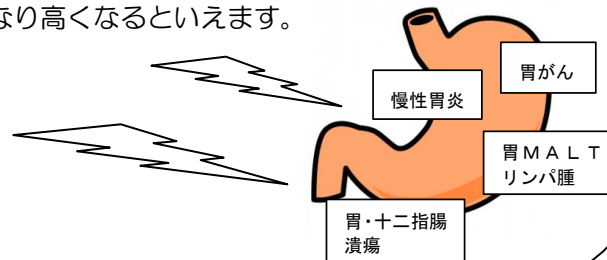
ピロリ菌はどんな病気を起こすのですか？

○ピロリ菌は、一度感染すると自然消失例はほとんどなく持続的に感染し、胃粘膜を傷つけ炎症を起こします。

○それが原因となり、慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫（悪性リンパ腫の1つ）、胃がんの原因になることが分かっています。

○ピロリ菌に感染していても、全員がかならず胃の病気になるわけではありませんが、胃潰瘍の7割、十二指腸潰瘍の9割がピロリ菌感染によって起こるといわれています。

○また、胃がん患者の98%がピロリ菌の感染者であったという報告もあり、ピロリ菌に感染していると、胃がんになるリスクがかなり高くなるといえます。



どのようにして感染するのですか？

○どのように感染するのかは実はまだ十分わかっていませんが、多くの人が乳児期に口から感染したと考えられています。

○特に、上水道の設備が整っていない時代に生まれ育った世代の人で高い感染率となっています。



どうして胃の中で生きていけるのですか？

○胃には、強い酸（胃酸）があるため、通常の菌は生息できません。

○ピロリ菌は「ウレアーゼ」という酵素をもっています。

○この酵素を利用すると、自分の周囲をアルカリ性の環境にすることができるので、胃酸を中和することによって身を守っているのです。

